

【専門科目領域/専門科目群/看護の基本】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護援助方法論 I		必修	2	1	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
坂本 文子 他	418	fumiko.sakamoto	月曜日～金曜日 12:10～13:00		
授業の目的・概要	看護実践能力の基礎となる基本的な看護技術のうち、あらゆる看護技術の土台となる共通技術を学ぶ。具体的には、人間関係を形成するためのコミュニケーション、看護の対象者と看護を提供する看護者自身の安全を守るための感染予防、安全確保の技術を学修する。これらの技術は、対象者との援助的関係を形成し、患者の生命と安全を守るあらゆる看護技術の基盤である。これらの看護技術が科学的根拠と倫理的判断に基づくことを理解し、演習することで援助技術を身に付ける。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業 (双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業 (自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
学習上の助言	1.人間の日常生活行動は、どのような心身の機能を使っているかを理解した上での学習となる。各単元で必要な人体構造機能学、生化学、人間関係論等の復習・予習を行い授業に臨んでほしい。 2.動画教材の活用と自主練習により、積極的に技術を修得してほしい。 3. 不明点や疑問点はそのままにせず、授業内の意思表示や教員への質問等を行うことで解決するように取り組んでほしい				
教科書	・系統看護学講座専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②/有田清子ほか/医学書院/2021 ・系統看護学講座専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③/有田清子ほか/医学書院/2021 【2冊指定】				
参考書	・新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I 第6版/深井喜代子ほか/メジカルフレンド社/2021 ・看護技術が見える vol.1 基礎看護技術/編/医療情報研究所/メディックメディア/2018 ・新装版 コミュニケーション効果的な看護を展開する鍵/著:アーネスティン・ウイデンバック他、訳:池田明子/日本看護協会出版会/2007				
外部教材	動画教材など、授業時に提示する。				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	看護技術提供に伴う倫理的判断と対象者の権利擁護について説明できる。	HSU (1) (3)、NS (1) (3)			
②	本科目で学ぶ共通技術の根拠と方法について説明できる。	HSU (2) (3)、NS (1) (3)			
③	本科目で学ぶ共通技術を自分で作成した手順と根拠に基づき実践できる。	HSU (2) (3)、NS (1) (3)			
④	人間関係形成のためのコミュニケーションについて説明できる。	HSU (1) (3)、NS (1) (3)			
⑤	対象者および看護者を安全に守るための感染予防技術について説明できる。	HSU (2) (5)、NS (1) (3)			
⑥	医療事故を防止し、対象者を安全に守るための技術について説明できる。	HSU (2) (3)、NS (1) (3)			
⑦	援助技術の習熟のための自己練習に主体的に取り組むことができる。	HSU (5) (6)、NS (5)			
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	授業ガイダンス 看護技術総論	講義	事後課題に取り組む。	4	
2	人間関係を発展させるためのコミュニケーション： コミュニケーションの意義と目的、構成要素と成立過程	講義	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	4	
3	人間関係を発展させるためのコミュニケーション：	講義・GW	事前課題を実施しておく。	8	
4	関係構築のためのコミュニケーションの実際		事後課題に取り組む。		
5	人間関係を発展させるためのコミュニケーション (演習：関係構築のためのコミュニケーション)	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	4	
6	感染予防における看護師の責務と役割 ・技術演習を行う際の留意事項と学習の仕方・実習室の利用方法 (演習：身だしなみ、技術演習の学習の仕方)	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	4	
7	感染から患者を守るための技術：感染予防における看護の役割、感染予防の基礎知識	講義	事前課題を実施しておく。	4	
8	感染から患者を守るための技術：手洗い、個人防護用具の使用法 (演習：手洗い、洗い残し点検)	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	4	
9	感染から患者を守るための技術：手洗い、個人防護用具の使用法 (演習：ガウンテクニック、手袋の着脱)	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	4	
10	感染から患者を守るための技術：療養環境の清潔保持、針刺し、切削、血液暴露防止	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	4	
11	感染から患者を守るための技術 (演習：無菌操作)	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	4	
12	安全確保の技術とエビデンス (ヒューマンエラーの特徴と事故防止対策・事故分析)	講義・GW	事前課題を実施しておく。	8	
13	安全確保の技術とエビデンス (患者誤認防止、誤薬防止、ラインチューブトラブル、転倒転落防止)		事前課題を実施しておく。		
14	安全確保の技術とエビデンス (事例検討)	講義	事前課題を実施しておく。	4	
15	安全確保の技術とエビデンス (事例検討)	講義・GW	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	4	
試	筆記試験、技術試験				

【専門科目領域/専門科目群/看護の基本】

		達成度評価						
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		50	30	0	0	20	100	
総合力指標	知識・技術力	50	10	0	0	10	70	
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	0	10	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	10	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10	
問題を発見・解決する力		0	10	0	0	0	10	
		評価のポイント						
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点					フィードバックの方法	
試験	①	✓	・授業中に講義した内容の理解度および知識の定着について、学期末に定期試験を実施して評価する。 ・形式は、記述式、選択式の混合である。					試験終了後に、試験の解説を行い、学生の質問に答える。
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
	⑥	✓						
	⑦	✓						
レポート	①	✓	単元ごとに学習課題を提示する。課題レポートの提出状況と内容により評価する。 演習終了時には、事後課題を提示する。					・演習時にレポートを活用できるようにする。 ・演習後にレポートを提出し、コメントを記入する。
	②	✓						
	③							
	④	✓						
	⑤	✓						
	⑥							
	⑦	✓						
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
	⑦							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
	⑦							
その他	①		演習への取り組み、課題の提出状況から、主体性や意欲を評価する。					・提出した課題に対して必要に応じてコメントする。全体への指摘は授業内でコメントする。
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥	✓						
	⑦							
備 考								
他 担 当 教 員	梶原睦子、窪川理英、小石川好美、他							
教 員 の 実 務 経 験	科目責任者は、看護師として 15 年の臨床経験と看護教員として 18 年の教育経験をもつ							
実 践 的 授 業 の 内 容	・担当教員の臨床経験および今までの学生指導で得た経験をもとに、各単元において事例紹介を交えて学生が臨床における看護をイメージしやすいように授業を進める。							
そ の 他	・他の科目の進行状況や学生の学修状況により、授業スケジュールの変更があり得る。 ・今後の社会情勢によって、シラバスの変更があり得る。							